

第23期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2017）

重点大型研究計画概要一覧（7件）

分野	計画番号	学術領域番号	計画名称（日本語のみ）	計画の概要	主な実施機関と実行組織
基礎生物学	11	12-1	生物の適応戦略研究のための大学連携研究拠点ネットワークの形成	生物は地球環境の変動にどのように応答しそのシステムを進化させて生きながらえてきたのか、その適応戦略を、大学連携研究ネットワークを構築しさまざまな研究技術、解析手法を用いることによって明らかにする。	基生研、遺伝研、北大低温研、東北大生命、東大理、臨海、植物園、筑波大生命学際、臨海、東工大科創成、名大ITbM、京大理、生命、奈良先端大バ、阪大生機能、蛋白研、九大生医研、OIST
基礎医学	35	16-6	高度安全実験(BSL-4)施設を中核とした感染症研究拠点の形成	国内に最高水準の高度安全実験(BSL-4)施設を有する世界トップレベルの感染症教育研究拠点を形成し、当該分野で世界をリードする研究と人材育成により感染症に対するグローバルな安全・安心を確保する。	長崎大学、北海道大学、東北大学、東京大学、東京医科歯科大学、慶應義塾大学、大阪大学、神戸大学、九州大学
歯学	42	19-1	口腔科学研究拠点の形成—未来医療をめざす口腔科学—	健康長寿社会の推進に向けて、口腔と全身の連関システムを解明し、口腔疾患の制御に、口腔機能の維持・回復・予防を加えた新たな口腔医療の創出を目指すためのオールジャパン体制の口腔科学研究拠点を形成する。	中核拠点となる東京医科歯科大学と拠点6大学（東北大学、新潟大学、東京歯科大学、昭和大学、大阪大学、九州大学）で実施
数理科学	50	22-1	数理科学の深化と諸科学・産業との連携基盤構築	数学・数理科学を深化させるとともに諸科学・産業との連携を着実に展開するためのネットワーク型の研究拠点を形成し、国際的研究動向を把握しフロンティアを形成するハブとなる訪問滞在型プログラムを実施する。	京都大学（フロンティア形成）、統計数理研究所（連携形成）、東北大学（訪問滞在）を中心に北海道大学・東京大学・明治大学・早稲田大学・名古屋大学・大阪大学・広島大学・九州大学が参画
物理学	51	23-1	非平衡極限プラズマ全国共同連携ネットワーク研究計画	本研究計画は、ネットワークによって最先端プラズマ物理研究を実施し、極限プラズマに共通の非平衡性の学理を探求し学問的に体系化、新学術分野を創成する。核融合や新エネルギーの実現と新機能物質創成を加速する。	九州大学（中心実施機関）、電通大、阪大、東北大、核融合科学研、金沢大、名大、等
地球惑星科学	78	24-2	太陽地球系結合過程の研究基盤形成	太陽からのエネルギーは放射と太陽風（高エネルギー粒子流）から構成され、前者は赤道域で、後者は極域で最大となる。これらの特異点に2つの大型レーダーを建設し、更に全球観測網を整備する。	(1) 京都大学生存圏研究所 (2) 国立極地研究所、名古屋大学宇宙地球環境研究所 (3) 名古屋大学宇宙地球環境研究所、九州大学国際宇宙天気科学・教育センター、IUGONET運営協議会
総合工学	103	27-1	最先端プラズマ科学グローバルイノベーション拠点の形成	我が国が世界に誇るプラズマ科学技術を基盤とし、名古屋大学を中心とした研究機関連携によって、グリーン・ライフ及び安心・安全イノベーションを先導する世界最高峰の拠点を構築する。	「最先端プラズマ科学グローバルイノベーション拠点」：名古屋大学「プラズマ科学プラットフォーム」を中核とし、九州大学プラズマナノ界面工学センター、東京大学、東北大学と海外機関が連携。

学術大型研究計画概要一覧(区分I)(40件)

分野	計画番号	学術領域番号	計画名称(日本語のみ)	計画の概要	主な実施機関と実行組織
基礎生物学	11	12-1	生物の適応戦略研究のための大学連携研究拠点ネットワークの形成	生物は地球環境の変動にどのように応答しそのシステムを進化させて生きながらえてきたのか、その適応戦略を、大学連携研究ネットワークを構築しさまざまな研究技術、解析手法を用いることによって明らかにする。	基生研、遺伝研、北大低温研、東北大生命、東大理、臨海、植物園、筑波大生命学際、臨海、東工大創成、名大ITbM、京大理、生命、奈良先端大バ、阪大生機能、蛋白研、九大生医研、OIST
農学	17	14-3	気候変動に対応するゲノム基盤技術に基づく次世代ゲノム育種展開	次世代ゲノム育種配列解析情報センター、資源生物ゲノム情報研究推進拠点、次世代ゲノム育種技術研究推進拠点を次世代ゲノム育種企画・デザイン拠点の下に構築して研究を進め、国際サブ拠点と連携して国際化を図る。	国立遺伝学研究所、東京農業大学、東京大学、岡山大学、鳥取大学、九州大学、京都大学、東北大学、次世代作物開発研究センター、国際農業研究協議グループの研究機関
農学	18	14-4	大気・水・土環境のグリーンイノベーション改善・回復研究拠点の形成	環境・水の時代に対処すべく、大気・水・土環境のグリーンイノベーション改善・回復研究拠点を形成するために、大気・水・土環境観測調節施設、極端環境解明施設等々を構築し、研究成果を得て社会還元する。	実施機関は九州大学、筑波大学、北海道大学、福岡大学、農林系研究機関等々で実施されている。実行組織は同上の大学・機関内および日本農業気象学会等の学会・研究会で実施されている。
農学	19	14-4	エネルギー・情報オープンイノベーションによる自律農業共創学の拠点形成	エネルギーの自律化とICTの多面的機能化を機軸とした次世代も持続可能な自律的農業の具現化を目指して、多様な研究者、農業者、企業等がオープンイノベーションを展開できる自律農業共創学の研究拠点を形成する。	九州大学農学研究院・工学研究院・システム情報科学研究所・エネルギー研究教育機構他、東京・弘前・高知・宮崎大学、農研機構、九州先端科学技術研究所
農学	22	14-6	変動環境下での持続的スマート森林管理	森林の多面的機能の享受を将来にわたって確実にするためのIT技術を活用した順応的森林管理技術の開発を目標として、環境変動下での森林生態系の環境応答・リスク評価・影響予測、リスク管理技術開発を行う。	日本学術会議林学分科会委員を中心とし、中心の実施機関からの委員を加えて運営委員会を組織し、北海道大学と東京大学、京都大学、九州大学が、中心の実施機関としての役割を担う。
農学	23	14-7	カイコをモデルとした統合昆虫学拠点と新産業創生ネットワーク形成	わが国が研究をリードしているカイコを有用昆虫のモデルとして用い、従来にない発想や技術を取り入れて新規活用法を創造するインセクトイノベーションにより、新たな成長産業を創出するための研究拠点を形成する。	農研機構を中心に、日本蚕糸学会の学術ネットワークを駆使して、九州大学、山口大学、東京大学、京都大学、京都工芸繊維大学、基礎生物学研究所等の実行組織により研究を実施する。
食料科学	30	15-8	統合情報を駆使したスマート・メガスケール植物工場ネットワークによる国際競争力のある農作物生産	1,000,000m ² (100ha) 級(20ha超級を含む)のメガスケール植物工場による国際競争力のある農作物生産システムの構築と、そこでの農作物生産を支える統合情報システムの研究開発を行う。	植物工場設備を必要とする研究開発:北海道大学・愛媛大学・千葉大学・大阪府立大学、各種研究開発:東京大学・京都大学・東京農工大・九州大学・宮崎大学・次世代施設園芸拠点・他数企業

食料科学	31	15-8	統合農業知の可視化によるユーザーイノベーション実践科学	世界トップクラスにある日本農業の高単収技術および農業知財を次世代に継承しかつ国際競争力を強化するため、統合農業知の蓄積と活用プロセスを一般化した日本型実践農学の体系化と社会実装をめざす。	研究機構：東京農工大学(全体統括)、研究拠点：北海道大学、東京大学、慶應義塾大学、京都大学、九州大学、産業技術総合研究所、農研機構・北海道農業研究センター
食料科学	32	15-8	次世代オミクス情報制御食料生産植物工場システム	作物本来の遺伝子発現の限界、ストレス応答の限界を極限に至るまでの制御環境下で実験・検証しながら、代謝生理をシステム生物学的に解明したうえで、次世代オミクス情報制御食料生産システムを構築する。	北海道大学、愛媛大学、千葉大学、大阪府立大学、東京大学、東北大学、九州大学、熊本大学、京都大学、東京農工大学、豊橋技術科学大学、産総研北海道センター、九州沖縄農業研究センターなど
食料科学	33	15-9	統合的和食・腸内細菌機能科学によるグローバルヘルスフードイノベーション	和食研究と腸内細菌研究との協働により独自性の高い「機能性素材」を発掘し、それらを摂取する側のヒトにおけるレスポンスを最新の「分子栄養学・ゲノム栄養学・時間栄養学」の観点から理解することを試みる。	(中心実施機関)京都大学、東京大学、北海道大学、東北大学、九州大学、名城大学 拠点となる「統合的和食・腸内細菌機能科学研究所」を京都大学農学研究科に設置する。
基礎医学	35	16-6	高度安全実験(BSL-4)施設を中核とした感染症研究拠点の形成	国内に最高水準の高度安全実験(BSL-4)施設を有する世界トップレベルの感染症教育研究拠点を形成し、当該分野で世界をリードする研究と人材育成により感染症に対するグローバルな安全・安心を確保する。	長崎大学、北海道大学、東北大学、東京大学、東京医科歯科大学、慶應義塾大学、大阪大学、神戸大学、九州大学
臨床医学	37	17-1	医学医療情報の大規模統合解析と医用人工知能応用基盤の開発研究計画	高品質医療データ生成のための次世代電子カルテシステムを開発し、大規模医療情報DBの構築とその統合解析センターを実現し、医用人工知能応用システムの基盤を研究開発して研究者に提供する。	実施主機関：日本医療情報学会、東大、阪大、 実行分担：東大、阪大、自治医大、名古屋大、九大、帝京大、順天堂大学、等 協力：臨床系学会等、工業会等
臨床医学	40	17-5	放射線医科学イノベーション創出に向けた情報の統合と活用	放射線医科学研究情報をデータベース化し、学会・大学・研究機関等が参画する「放射線医科学コンソーシアム」による全国規模の共同研究で活用し、リスクと便益の適正バランスを考慮したイノベーションを創出する。	北大、環境技研、弘前大、東北大、福島県医大、東大、量研機構、京大、放影研、広大、九大、長崎大が関連学協会とネットワークを構築し研究を先導。コンソーシアムの全体運営は量研機構が実施。
歯学	42	19-1	口腔科学研究拠点の形成—未来医療をめざす口腔科学—	健康長寿社会の推進に向けて、口腔と全身の連関システムを解明し、口腔疾患の制御に、口腔機能の維持・回復・予防を加えた新たな口腔医療の創出を目指すためのオールジャパン体制の口腔科学研究拠点を形成する。	中核拠点となる東京医科歯科大学と拠点6大学(東北大学、新潟大学、東京歯科大学、昭和大学、大阪大学、九州大学)で実施
数理科学	50	22-1	数理科学の深化と諸科学・産業との連携基盤構築	数学・数理科学を深化させるとともに諸科学・産業との連携を着実に展開するためのネットワーク型の研究拠点を形成し、国際的研究動向を把握しフロンティアを形成するハブとなる訪問滞在型プログラムを実施する。	京都大学(フロンティア形成)、統計数理研究所(連携形成)、東北大学(訪問滞在)を中心に北海道大学・東京大学・明治大学・早稲田大学・名古屋大学・大阪大学・広島大学・九州大学が参画

物理学	51	23-1	非平衡極限プラズマ全国共同連携ネットワーク研究計画	本研究計画は、ネットワークによって最先端プラズマ物理研究を実施し、極限プラズマに共通の非平衡性の学理を探求し学問的に体系化、新学術分野を創成する。核融合や新エネルギーの実現と新機能物質創成を加速する。	九州大学(中心実施機関)、電通大、阪大、東北大、核融合科学研、金沢大、名大、等
地球惑星科学	78	24-2	太陽地球系結合過程の研究基盤形成	太陽からのエネルギーは放射と太陽風(高エネルギー粒子流)から構成され、前者は赤道域で、後者は極域で最大となる。これらの特異点に2つの大型レーダーを建設し、更に全球観測網を整備する。	(1)京大大学生存圏研究所 (2)国立極地研究所、名古屋大学宇宙地球環境研究所 (3)名古屋大学宇宙地球環境研究所、九州大学国際宇宙天気科学・教育センター、IUGONET運営協議会
地球惑星科学	79	24-2	火星における宇宙天気・宇宙気候探査計画	火星における宇宙天気・宇宙気候の課題を解明することを目的とした火星周回探査計画。親機と子機の2周回機から構成され、火星圏高エネルギー粒子環境、及び、宇宙への大気散逸が気候変動に果たした役割を解明する。	主:JAXA宇宙科学研究所、WGメンバー所属機関:東北大、東京大、立教大、国立極地研究所、名古屋大、京都大、富山県立大、金沢大、九州大ほか計21機関(国内:18、海外3)。
情報学	84	25-1	行動情報学研究基盤整備計画	人、組織、社会など多様な主体の行動を分析、活用して、多様な社会課題を解決するための研究基盤を整備して新たな行動情報学を構築し、関連する学術分野の研究を促進し、世界での当該研究分野を先導する。	京都大学、国際電気通信基礎技術研究所、大阪大学、東京大学、九州大学、東北大学、大阪府立大学、青山学院大学、日本電信電話株式会社、日本電気株式会社
情報学	85	25-2	安心・安全なIT社会を実現するソフトウェアフォレンジックス基盤	ソフトウェア開発と運用に関する情報を社会全体で共有、活用する技術基盤の確立、及び、それら技術の普及・推進に向けた人材養成を行う情報開発技術センター「ソフトウェアフォレンジッククラウド」を整備する。	奈良先端科学技術大学院大学(中核的研究拠点) 神戸大学大学院工学研究科、工学院大学情報学部、九州大学システム情報科学研究院、岡山大学工学部、大阪大学大学院情報科学研究科
情報学	86	25-2	高信頼言語と形式仕様言語を並列処理系上に統合する高性能高信頼ソフトウェア生産基盤	高信頼プログラミング言語と形式仕様記述言語を統合し、仕様記述からテストまでを系統的に実現するソフトウェア記述システムと開発されたソフトウェアをメニーコア上で高性能に実行する超並言語列処理系を開発する。	主な実施機関:東北大、北陸先端大 実行組織:九州大、東大、東工大、NII、産総研 協力企業:NECソリューションイノベータ、富士通、SRA他4社
情報学	89	25-3	進化型プログラマブル情報通信基盤	複数の仮想ネットワークによって、あるスライス(予約された計算・ストレージ・ネットワーク資源)を実運用しながら、同時に他のスライスで研究開発することで進化する、プログラマブル情報通信基盤を構築する。	東京大、筑波大、情報通信研究機構、産総研、情報研、北海道大、東北大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大、東京工業大、慶應義塾大、早稲田大、NTT、KDDI、NEC、富士通、日立等
情報学	94	25-6	安全・安心社会を実現するセキュリティ・リスク制御研究機関	社会システムの根幹を成す情報システムの安全・安心な運用に向けて継続的かつオールジャパン体制の情報セキュリティ基盤技術及びリスク評価と制御研究の確立と2つのテストベッドを含む研究成果の社会還元を目指す。	大阪大、東京大、九州大、産総研、慶應義塾大、(株)KDDI研、名古屋大、情セ大、早稲田大、パナソニック、JAIST、筑波大、他

情報学	96	25-8	分子ロボティクス・イニシアティブ	分子ロボティクスの発展のため、世界最先端研究を先導する研究ネットワークを形成し、応用展開のベースとなる標準プロトタイプを開発するとともに、応用を目指す研究者・技術者に様々な開発支援サービスを提供する。	中核拠点機関：東北大拠点機関：東大、阪大、名大、東工大、九大、九工大、京大、北大、北陸先端大、関西大、鳥取大、産総研
情報学	98	25-10	学習ログの科学的分析に基づく高度教育情報基盤の開発	本研究の目的は、生涯にわたり長期的かつ組織間で連携して学習ログデータを利活用可能とし、参画者全員が利用形態や情報の開示レベルを自由に調整可能とする、教育・学習支援のためのクラウド情報基盤の構築である。	九州大学ラーニングアナリティクスセンター、福岡県教育委員会、日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)、大学ICT推進協議会、教育システム情報学会、学習分析学会
総合工学	103	27-1	最先端プラズマ科学グローバルイノベーション拠点の形成	我が国が世界に誇るプラズマ科学技術を基盤とし、名古屋大学を中心とした研究機関連携によって、グリーン・ライフ及び安心・安全イノベーションを先導する世界最高峰の拠点を構築する。	「最先端プラズマ科学グローバルイノベーション拠点」：名古屋大学「プラズマ科学プラットフォーム」を中核とし、九州大学プラズマナノ界面工学センター、東京大学、東北大学と海外機関が連携。
総合工学	106	27-2	統合的リスク情報システム科学の確立と社会実装を加速するネットワーク型研究基盤構築	個別学術領域の多様なリスク科学方法論を統合するリスク科学の理念・体系と教育システムとを整備し、研究教育機関が利用可能な仕組みを提供する。このために、基幹研究拠点、実装拠点、教育拠点、支援拠点を置く。	統計数理研究所リスク解析戦略研究センター、筑波大学システム情報工学研究科リスク工学専攻、東京大学工学系研究科システム創生学専攻、九州大学マス・フォア・インダストリー研究所等
総合工学	109	27-3	熱エネルギー高効率回収・有効利用技術の開発と社会実装への基盤形成	熱を高密度で長期間にわたって貯蔵できる化学蓄熱を用いた未利用熱エネルギーの回収・貯蔵・輸送技術の研究開発と社会実装性の検討、ならびに熱エネルギー需給市場形成の基礎となるデータ集積を行う。	東工大：材料開発・データ集約、名大：冷熱用装置開発、九大：蒸気発生装置開発、東北大：高伝熱材設計、北大：熱輸送技術実用化、三菱化学：産業用システムの社会実装性検証、阪大：動特性解析
総合工学	111	27-9	途上国のSDGs達成に資する深海エネルギー・鉱物資源の開発のための実海域実証実験の実施および深海水槽の建設	海底鉱物資源開発、海底鉱物採掘技術、海洋深層水複合利用技術、CO2 ハイドレート貯留技術等を推進するため、掘削船・特殊プラント船・大型浮体施設・大規模深海水槽・海中機器等の開発と実海域実証実験を実施する。	高効率海底鉱物資源採掘技術：大阪府立大学ほか、海洋深層水複合利用施設：東京大学、佐賀大学ほか、CO2ハイドレート貯留検証実験：東京大学ほか、海洋資源開発深海水槽設置：九州大学
機械工学	117	28-5	新世紀世界の成長焦点に築くピコテクノロジー基盤ものづくりエコシステム拠点	企業、大学、公設試、行政、金融機関の共創によるピコ精度加工技術研究ネットワーク構築と、ピコ精度試作ファウンドリを基軸とするピコテクノロジー基盤ものづくりエコシステム拠点を創ることである。	理化学研究所、産総研、東大、東工大、慶応、東北大、岩手大、大阪大、京大、名大、九大、神戸大、県公設試等。
材料工学	126	31-3	超顕微科学研究拠点	超高圧電顕法と放射光分析法を有機的に結びつけた超顕微科学研究を推進する連携ネットワークを構築し、異なる手法と学術領域において学理探求における協奏効果の創出とコラボレーティブ・イノベーションを展開する。	大阪大学超高圧電子顕微鏡センター、九州大学超顕微解析研究センター、自然科学研究機構生理学研究センター、支援センター、佐賀大学シンクロトン光応用研究センター

材料工学	127	31-6	バイオマテリアル国際研究拠点の形成	次世代の医療産業創造のために、医・歯・薬・工・産業に亘る連携プラットフォームを基盤としバイオマテリアルの国際研究拠点を形成し、日本バイオマテリアル学会を責任母体として研究推進と人材育成とを実施する。	東京医科歯科大学、東北大学、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学、理化学研究所、産業技術総合研究所、国立循環器病研究センター、日本バイオマテリアル学会
理学・工学融合領域	135	33-1	ヒューマンセントリック思考による経験知集約材料創製	材料設計の成功・失敗から得た「経験知」を集約、活用した新材料創製を目指す新しい研究モデル「経験知集約材料創製モデル」を構築、実践し、人間の感覚・感性に合わせた材料創製を可能にする研究拠点を形成する。	物質・デバイス共同研究拠点(北大電子科学研究所、東北大多元物質化学研究所、東工大化学生命科学研究所、阪大産業科学研究所、九大先端物質化学研究所)並びに拠点参画機関、研究者
理学・工学融合領域	138	33-1	4次元時空間モデリング・アクティビティ解析プラットフォーム	日本中を覆う無数のカメラから得られた、時空間上に疎に分布する膨大な映像データから、構造物の3次元復元だけでなく、様々な活動を再構成可能な4次元時空プラットフォームを構築することを目的とする。	拠点:(本部)阪大産業科学研究所/データビリティフロンティア機構、東北大学院情報科学研究科、東大生産技術研究所、九大大学院システム情報科学研究院、データ拠点:国立情報学研究所
2分野以上に関わる融合領域	142	34-1	分散型放射光施設プラットフォームの構築による高分子科学の分野融合を加速する産学連携イノベーション・エコシステムの創成	本計画では、新規施設として東北に建設を計画中の「3GeV中型放射光施設」を用いて、九州、西日本、東日本に分散する先端放射光施設をハブとし、近傍の大学と地域産業の産学連携型研究ネットワークを構築する。	東北大学 多元物質科学研究所 九州大学 シンクロトン光利用研究センター 理化学研究所 放射光科学総合研究センター 大阪大学 蛋白質研究所 東京大学 放射光連携研究機構
2分野以上に関わる融合領域	145	34-1	インターネット・オブ・アニマルズ	最新情報通信技術を駆使し、これまで収集が困難であった多数の野生動物個体の行動の長期計測を行い、得られたビッグデータをやはり最新情報通信技術を使い解析する事で、動物行動学を画期的に発展させる。	北海道大(拠点)、琉球大(拠点)、京都大、東京大、東北大、九州大、広島大、統計数理研究所、国立極地研究所、東京工業大、沖縄科学技術大学院大学
2分野以上に関わる融合領域	146	34-1	水素社会に対応するゼロエミッション航空機の研究開発	水素燃料および電動航空機の基盤技術研究(航空機電動化技術研究、水素取扱い技術研究、航空エンジンのハイブリッド化技術研究)を実施、主要技術を小型無人機に集約し、技術成熟度を高めた上で飛行実証を行う。	宇宙航空研究開発機構(JAXA)、東京大学、九州大学、中部大学、早稲田大学、日本大学、三菱重工、岩谷産業
2分野以上に関わる融合領域	153	34-1	イメージング・ビッグデータ・ロボティクスの融合による医療人工知能の開発	医用画像技術、ビッグデータ解析技術、ロボット技術の高度化と融合による医療人工知能の構築を目指し、研究拠点強化とネットワーク構築を行い、あわせて実用化を目指した研究開発を推進する。	統括本部:九大基盤技術拠点:奈良先端大、千葉大、広島市大、名工大、農工大、名大、岐阜大、東大、産総研他知能化医療臨床拠点等:九大、阪大、東京女子医大、山口大他

2分野以上に 関わる融合領 域	156	34-1	生体医工学と健康情報 学の統合拠点形成	統合科学・総合工学としての生体医工学・健康情報学の研究推進および 人材育成のための拠点を形成し、超高齢社会における健康寿命の延伸 と最先端医療が実現される高度福祉社会の構築に貢献することを目的と する。	日本生体医工学会 東京大学 東北大学 大阪大学 九州大学 国立身体障害者リハビリテーションセンター 国立循環器病研究センター
2分野以上に 関わる融合領 域	160	34-1	エネルギーに関する革 新的・総合的な国際共 同利用・共同研究ハブ の構築 － “人類に負荷を感じ させないエネルギー社 会”のデザインと地球環 境との共存－	エネルギーの技術進歩とこれに起因する様々な社会課題に対し、国内 外の優れた研究者が一体となって近未来、そして100年先の世界を見据 えた研究を主導し展開するための「国際共同利用・共同研究ハブ」を構 築する。	国際共同利用・共同研究ハブは九州大学が責 任を持ち、諸国の政府機関・国際機関・自治体・ 経済界、国内外の大学・研究所等からなる有識 者会議を組織。

学術大型研究計画概要一覧(区分Ⅱ)(3件)

分野	計画 番号	学術領 域番号	計画名称(日本語のみ)	計画の概要	主な実施機関と実行組織
農学	3	14-7	わが国の産業・社会の 基盤資源としての昆虫 類の生物情報データ ベースおよび大規模標 本の整備	国内とアジア地域における大規模な昆虫分布調査と種情報のデータ ベース化、DNAバーコード及び国内の代表的昆虫の全ゲノム解析、3D形 態情報の集積等により統合データベース、同定・検索システムを開発確 立する。	大学(北大、東大、東工大、京大、九大等)、独立 行政法人(農業環境技術研究所、農業・食品産 業技術総合研究機構、国立環境研究所、国立 科学博物館等)、国立感染症研究所)
基礎医学	4	16-5	トランスオミクスアプ ローチに基づく革新的 医学研究	ヒトや生物のゲノム、エピゲノム、転写物、タンパク質、代謝物のビッグ データを活用し、階層横断的な生命システムの理解を目指す学問分野 「トランスオミクス」を創出し、革新的医学研究へ応用する。	九州大学、東京大学、京都大学、東京医科歯科 大学、熊本大学、徳島大学、東北大学、大阪大 学、理化学研究所、国立がん研究センターなど がオールジャパン型ネットワーク体制を構築。
薬学	5	20-2	創薬基盤拠点の形成	本計画では創薬のための大型基盤設備を整備・充実させ、創薬拠点を 基盤として大学等の公的研究機関で行う創薬研究、特に希少疾患・難治 疾患創薬を支援する体制を構築する。理論創薬研究の進展もはかる。	1)中心実施機関:東京大学創薬機構 2)連携実施組織:東京大学、北海道大学、東北 大学、京都大学、大阪大学、九州大学、長崎大 学、など